

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : クロモアガー カンジダプラス生培地

会社情報

会社名 : 関東化学株式会社
住所 : 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1
担当部門 : 試薬事業本部 企画管理部 資料課
電話番号 : (0120)260-489
FAX番号 : (03)3241-1047
メールアドレス : BC32@kanto.co.jp

整理番号 : 08409

2. 危険有害性の要約

分類基準に該当しない。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

| 化学名 | 濃度 (%) | 化学式 | 官報公示整理番号 | | CAS RN |
|---------------|--------|-------------------------|----------|-------|-----------|
| | | | 化審法番号 | 安衛法番号 | |
| カンテン | 1.5 | (C12H18O9) _n | - | - | 9002-18-0 |
| ペプトン | 1.1 | - | - | - | - |
| 選択剤と特殊酵素基質混合物 | 2.5 | - | - | - | - |

* 選択剤として、クロラムフェニコール(CAS RN 56-75-7)を0.1%未満含む。

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。
皮膚に付着した場合 : 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。
眼に入った場合 : 直ちに流水で十分に洗い流す。
飲み込んだ場合 : 直ちに水を飲ませる。必要に応じて医師の処置を受ける。
応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水、粉末・二酸化炭素、乾燥砂、泡
使ってはならない消火剤 : 特になし
消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
消火作業は、風上から行う。
初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものなどが皮膚に付着したり、粉塵を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法 : 飛散したものは掃き集めて空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 皮膚に付けたり、粉塵を吸入しないように必要に応じて適切な保護具を着用する。

安全取扱注意事項 : みだりにエアロゾル、粉塵が発生しないように取扱う。

保管

安全な保管条件 : 容器は密栓して冷蔵保存する (2-8℃)。

安全な容器包装材料 : ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレンなど。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸用保護具 : 必要に応じて防じんマスクを着用する

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

眼の保護具 : ゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣 (長袖作業衣)、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 固体
 色 : 肌色
 臭い : 特異臭
 pH : 5.9 - 6.3
 融点 : データなし
 凝固点 : データなし
 沸点 : データなし
 引火点 : データなし
 自然発火点 : データなし
 分解温度 : データなし
 可燃性 : 可燃性固体
 蒸気圧 : データなし
 相対密度 : データなし
 密度 : データなし
 相対ガス密度 : データなし
 溶解度 : 水:熱水に可溶。
 n-オクタノール/水分配係数 (Log : データなし

Pow)

| | |
|--------------|---------|
| 爆発限界 (vol %) | : データなし |
| 動粘性率: | : データなし |
| 粒子特性 | : データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|-----------------------|
| 反応性 | : 酸化剤と接触すると反応することがある。 |
| 化学的安定性 | : 通常条件で安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | : 通常の使用条件下では安定。 |
| 避けるべき条件 | : 日光、熱。 |
| 混触危険物質 | : 酸化剤。 |
| 危険有害な分解生成物 | : 一酸化炭素、窒素酸化物。 |

11. 有害性情報

| | |
|------------------|---|
| 急性毒性 (経口) | : 分類できない |
| 急性毒性 (経皮) | : 分類できない |
| 急性毒性 (吸入) | : 区分に該当しない (気体) 分類できない (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト) |
| 皮膚腐食性/刺激性 | : 分類できない |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | : 分類できない |
| 呼吸器感作性 | : 分類できない |
| 皮膚感作性 | : 分類できない |
| 生殖細胞変異原性 | : 分類できない クロラムフェニコール: in vitro では、細菌の復帰突然変異試験で陰性、陽性の報告、大腸菌を用いた DNA 修復試験で陰性、陽性の報告、哺乳類培養細胞を用いた DNA 断片化検出試験で陽性、姉妹染色分体交換試験で陰性、陽性の報告、ヒトリンパ球を用いた染色体異常試験で陽性の報告がある。また、in vivo の体細胞に対し遺伝毒性を有するとの報告がある。よって、区分 2 とした。 しかしながら、本物質の含有量はカットオフ値以下である。 |
| 発がん性 | : 分類できない クロラムフェニコール: 国内外の分類機関による既存分類では、IARC でグループ 2A に分類されている。要約のみの報告であるが、マウスに本物質を飲水投与した発がん性試験では、2 系統のマウスでリンパ腫の発生率の増加、1 系統のマウスで肝細胞がんの発生率の増加がみられた。本物質は再生不良性貧血を誘発し、白血病の発生に関連している。よって、区分 1B とした。 しかしながら、本物質の含有量はカットオフ値以下である。 |

- 生殖毒性 : 分類できない
 クロラムフェニコール: 妊娠マウスに強制経口投与した発生毒性試験において、胚/胎児死亡率増加がみられている。胚・胎児死亡率は、1000 及び 2000 mg/kg/day においてそれぞれ 71 及び 100%であり、500 mg/kg/day では 31%、対照群では 24%であった。ラット及びマウスでは 500~2000 mg/kg/day、ウサギでは 500 及び 1000 mg/kg/day を経口投与した発生毒性試験で、3 つすべての種で胚及び胎児の死亡と胎児発育遅延の発生率の増加がみられた。ラットでは 催奇形性は主に膺ヘルニアでラットでのみに観察された。妊娠した動物は最高用量での体重低値以外に毒性の兆候を示さなかった。よって、発生毒性試験において胚及び胎児の死亡率の増加がみられた。母動物毒性の有無については明確ではないが、最高用量で体重低値のみがみられたとの記載から、明確な母動物毒性がみられない用量で胚・胎児死亡率の増加がみられたと判断し、区分 1B とした。しかしながら、本物質の含有量はカットオフ値以下である。
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 分類できない
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない
 クロラムフェニコール: 本物質は、医療用医薬品として使用される抗生物質である。重大な副作用として、再生不良性貧血、Gray syndrome、視神経炎又は末梢神経炎、その他の副作用として血液への影響（顆粒球減少、血小板減少症）、消化器への影響（胃部圧迫感、悪心、嘔吐、軟便、下痢、腸炎）、過敏症状、菌交代症、ビタミン欠乏症が挙げられている。また、グレイ症候群（“Grey Baby Syndrome”、“Grey Syndrome”）の発症に関与することが知られている。グレイ症候群は、通常、本物質の投与開始 2~9 日後に始まる心血管虚脱状態である。その特徴は、食事ができない、嘔吐、腹部膨満、チアノーゼ、無気力、ショック状態、体温の低下等である。発症例の 60%が死亡するとも言われ、通常、本物質の投与量が 25 mg/kg 体重/日を超えると発現するとされている。よって、区分 1（造血系、神経系、循環器系、消化器）とした。しかしながら、本物質の含有量はカットオフ値以下である。
- 誤えん有害性 : 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

- 水生環境有害性 短期（急性） : 分類できない
 水生環境有害性 長期（慢性） : 分類できない

残留性・分解性

追加情報なし

生体蓄積性

追加情報なし

土壤中の移動性

追加情報なし

オゾン層への有害性

- オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 使用後は 121℃、20 分で高圧滅菌した後、廃棄する。
 または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。
- 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送 (IMDG)

| | |
|----------------|-------|
| 国連番号 (IMDG) | : 非該当 |
| 正式品名 (IMDG) | : 非該当 |
| 容器等級 (IMDG) | : 非該当 |
| 輸送危険物分類 (IMDG) | : 非該当 |

航空輸送 (IATA)

| | |
|----------------|-------|
| 国連番号 (IATA) | : 非該当 |
| 正式品名 (IATA) | : 非該当 |
| 容器等級 (IATA) | : 非該当 |
| 輸送危険物分類 (IATA) | : 非該当 |

| | |
|--------|-------|
| 海洋汚染物質 | : 非該当 |
|--------|-------|

国内規制

| | |
|--------|----------------------------|
| 陸上規制 | : 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。 |
| その他の情報 | : 補足情報なし |

15. 適用法令

国内法令

| | |
|------------------------|-------|
| 労働安全衛生法 | : 非該当 |
| 毒物及び劇物取締法 | : 非該当 |
| 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) | : 非該当 |

16. その他の情報

| | |
|------|--|
| 参考文献 | : 化学大辞典 共立出版社 (1963)。 NITE 化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)、独立行政法人製品評価技術基盤機構。 17322 の化学商品、化学工業日報社 (2022)。 |
|------|--|

*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート (SDS) は、JIS Z7253 に基づいて作成しております。